

ein film von NIKOLAUS GEYRHALTER

Regie & Kamera NIKOLAUS GEYRHALTER Schnitt & Dramaturgie WOLFGANG WIDERHOFER Buch NIKOLAUS GEYRHALTER, WOLFGANG WIDERHOFER

Ton STEFAN HOLZER, ANDREAS HAMZA, HJALTI BAGGER-JONATHANSSON, LUDWIG LÖCKINGER, HEIMO KORAK, NICOLE SCHERG

Kamerassistenz GERALD PIESCH, KONRAD EDELBACHER, LUDWIG LÖCKINGER, OLIVER SCHNEIDER, NATASCHA BURGSTALLER, PAUL SCHÖN

Künstlersche Mitarbeit & Drehkoordination MARIA ARLAMOVSKY Aufnahmeleitung FLORE DEROOSE, JOSE MARTOS, METTE KIERKEGAARD, ANNA HOFFMANN, MARIA WIERZBICKA

Sound design ANDREAS HAMZA Produktionsleitung MICHAEL KITZBERGER Produzenten NIKOLAUS GEYRHALTER, MARKUS GLASER, MICHAEL KITZBERGER, WOLFGANG WIDERHOFER

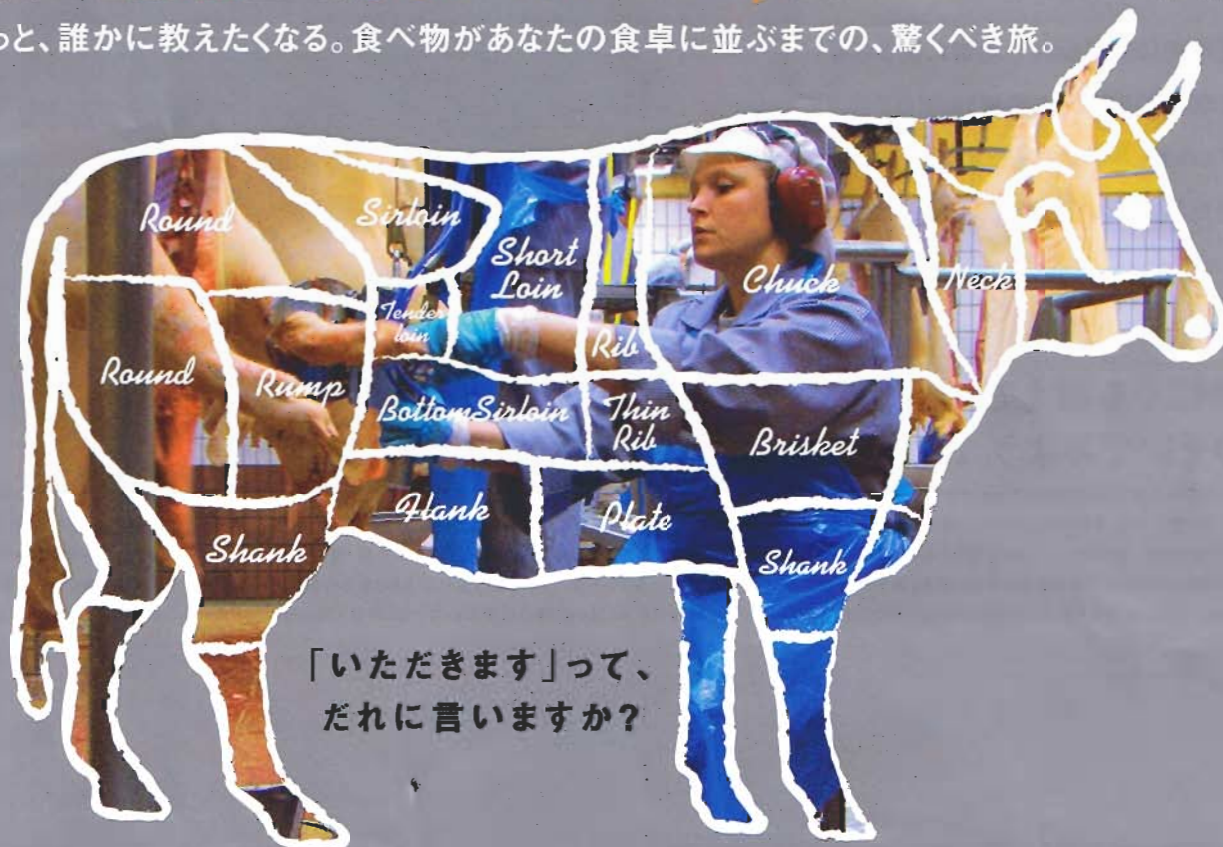
Produziert von NIKOLAUS GEYRHALTER FILMPRODUKTION GMBH

監督:ニコラウス・ゲイハルター 編集:ヴォルフガング・ヴィダーホーファー

オーストリア・ドイツ / 2005年 / 92分 / ヴィスタサイズ / ドルビー / 原題:OUR DAILY BREAD / 提供:新日本映画社 / 配給:エスペース・サロウ / 協力:オーストリア大使館

NGF ORF film NSRF 2+3sat MEDIA WWW.DOCUSHOP.AT ULOOK StadtkinoFilmverleih www.espace-sarou.co.jp

きっと、誰かに教えたくなる。食べ物があなたの食卓に並ぶまでの、驚くべき旅。

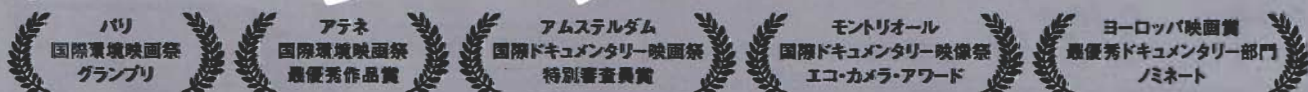


「いただきます」って、だれに言いますか？



OUR DAILY BREAD

いのちの食べかた



世界中の映画祭を驚嘆させ、近年最も話題になった「食」のドキュメンタリー！

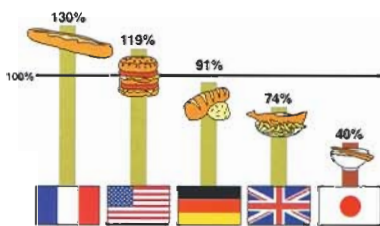
食べかたの作法はどうでもいい。
 見つめよう、そして知ろう。
 自分たちの業と命の大切さ、そして切なさを。
 森 達也 (映画監督/ドキュメンタリー作家)



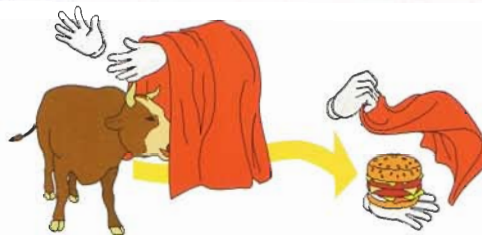
「圧倒的に素晴らしい。絶対に観るべき!」……………ニューヨーク・タイムズ
 「この映画に出てくる機械は、まるで生きているようだ。」……………プレミア
 「フェルメールの絵画を思わせる美しさ。」……………バラエティ
 「見たことのない現実! 現代社会の残酷な美しさが、正確に記録されている。」……………ニューヨーク・サン

学校でも教えてくれない、テレビでも見られない。
 のぞいてみよう。これが食料生産のグローバル・スタンダード!

私たち日本人が1年間に食べるお肉(牛・豚・鳥)は約300万トン。だれもが毎日のように食べている膨大な量のお肉。でも、そもそもお肉になる家畜は、どこで生まれ、どのように育てられ、どうやってパックに詰められてお店に並ぶのだろうか? 本作は、そんな私たちの生とは切り離せない「食物」を生み出している現場の数々を描いたドキュメンタリー。世界中の人の食を担うため、野菜や果物だけでなく、家畜や魚でさえも大規模な機械化によって生産・管理せざるをえない現代社会の実情。ヒッチングマシンのような機械で運ばれるヒヨコの群れ、わずか数秒で解体される魚、巨大なマジックハンドで揺すぶり落とされる木の実、自動車工場のように無駄なく解体される牛…etc。まさに唖然とするような光景の連続。その生産性の高さと、時に絵画のごとく美しい撮影に驚愕しつつも、改めて私たちが生きていることの意味が問い直される!



日本は全食料の6割を輸入している!
 日本は人口に比べて国土が狭く、食のライフスタイルも多様(世界中のどんな料理でも食べられる)なため、実に食品全体の60%を海外から輸入している。あなたが毎日食べているあれもこれも、映画に出てくるような海外の大規模工場で作られたものである。



牛は、どうやってハンバーガーになるの?
 現在、牛や豚などの家畜は、おもに屠畜(とちく)場や食肉工場(食肉センター)とよばれる専門の施設に送られ、大量に「お肉」にされている(東京では芝浦にある)。かつては各家庭や肉屋で行われていたその作業は、施設の中で集中的に行われるため、あまり世間一般の目に触れず、またあえて知ろうという人も少なかった。作業は、分業制で行われ、効率的に作業が進められている。最近では食の問題への関心の高まりから、見学を希望する人も増えているようだ。

いのちの
 食べかた

OUR DAILY BREAD

原題: OUR DAILY BREAD (Unser täglich Brot)
 2005年/オーストリア・ドイツ/92分/35mm/カラー/ヴィスタ/ドルビー
 監督:ニコラス・ゲイハルター 編集:ウォルフガング・ウィダーホーファー
 配給:エスパス・サロウ 提供:新日本映画社 協力:オーストリア大使館
<http://www.espace-sarou.co.jp/>

3/1(土)~3/21(金)

<http://www.wingz.co.jp/cinewind/>
 24時間テレフォンガイド 025-241-8300

話題の記録映画ウインドに登場! 前売券1,000円

電話025-243-5530 e-メール cinewind@mail.wingz.co.jp

料金 大人1,800円/学生1,500円/シニア1,000円 会員1,000円/学生&シニア会員800円

